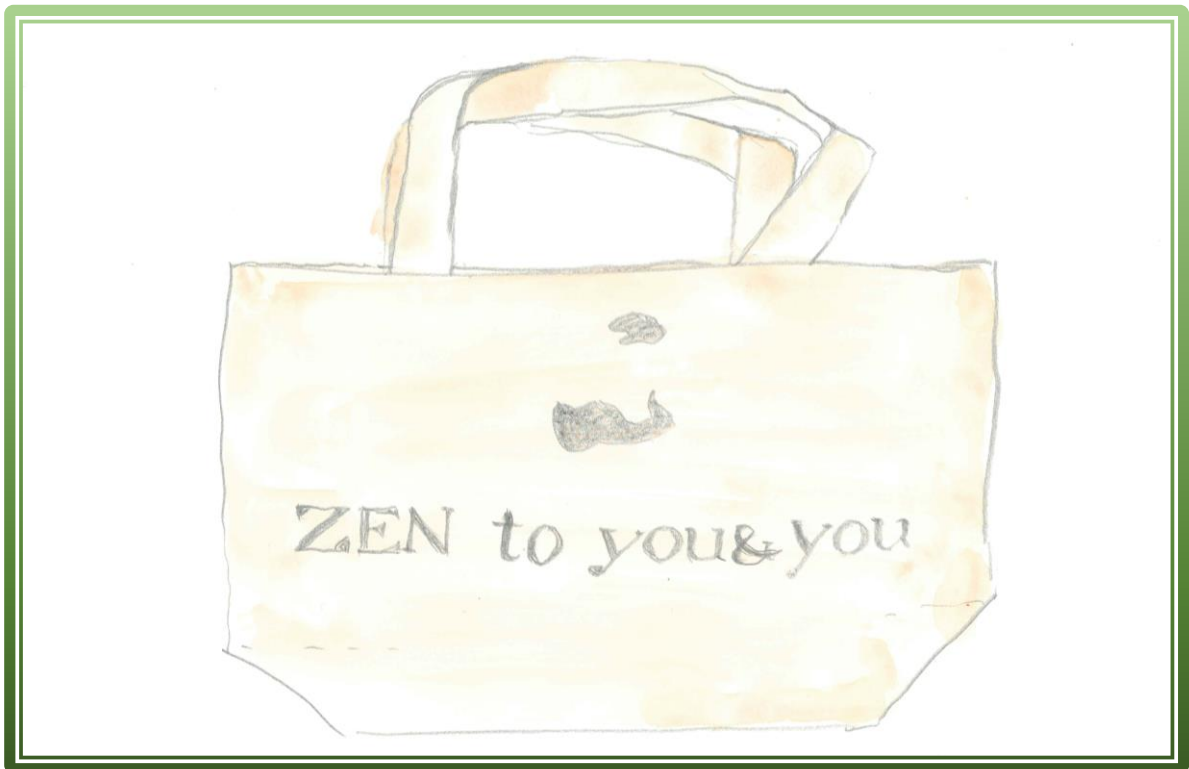


—平成30年<sup>ふみづき</sup>文月（7月）のことば—



『ZEN to you & you』

本誌に横文字が登場するのは初めてのことで、実は安永祖堂新管長様（裏面にてご紹介）がお持ちのクリアファイルにこの横文字が書かれており、雑談の中で老師は「これ何と読むか分かりますか？」と訊ねられました。語学に乏しい私なりの読みを終える前に「前途洋々だそうですね。」と、してやったりと言わんばかりに嬉しそうに回答されました。これは母校、京都花園大学の最近のスローガンなのだそうですが、禅宗門の大学らしい素晴らしい素晴らしいキャッチコピーと私は感銘を受けました。なぜか？私たちは先入観を取りあえず働かせます。英文が書かれていれば、つい英語読みしようとしてしまいます。そこそそを見事に奪い去る禅的な智慧と慈悲がそこにはあったからです。子供の頃に父から教わったこんな話を思い出しました。

大西洋を航海していたある外国船が遭難し、数日間漂流していた。食料はともかく飲料水が不足していたところに偶然別の船と遭遇した。真水を分けてもらおうと信号を送ると、「その場でバケツを下ろしなさい」と返信が来た。試しにバケツを下ろして水を汲むと、そこは海水ではなく真水であった。船はいつの間にかアマゾン川の河口を漂流していたのだった。

実はこの話、ブッカ・T・ワシントンという黒人解放運動の指導者の演説中の譬喩らしいのですが、父は先入観に支配されるな、自由で柔軟な捉え方も心がけなさいという意味で語ってくれたのでした。ところでこの英文の意味はと言えば「禅は太郎にも花子にも、誰にでも開かれている…」とでも訳しておきましょうか。

ちなみに上の絵のトートバッグは「ZEN to you & you」を非常に気に入った私への、管長様からのプレゼントなのです。

# 方広寺の新管長様をご紹介します

本年2月27日の未明に満103歳で遷化された大井際断管長様の後任の管長様が4月に就任されましたので、中外日報の記事より転載紹介します。

## やすなが そどう 安永 祖堂 老大師

昭和31年3月、愛媛県生まれ。父は会社員だったが、祖父と叔父は臨済宗寺院の住職。6歳で交通事故に遭い、左足に後遺症が残った。中学生の頃から叔父の寺に出入りして仏教に興味を持ち、叔父を師に得度した。「出家の理由は一つではありませんが、如是、真如の言葉のように、ありのままであって良い、自分は自分であって良い。それを禅の世界で得たのは間違いない」



花園大学で5年間非常勤講師を務めた後、45歳で教授。「今は研究者の立場ですが、本来育った宗門の世界に帰らせていただくのはありがたい。修行し直す思いで、大井際断老師をはじめ先達の方々の後を踏み、皆さんのご意見を頂き、方広寺の禅風、遠州の仏法を盛り立てたい」

花園大の学生時代、平田精耕老師の講義を聴き、老師が国内外で活躍するその姿に憧れた。卒業後は天龍僧堂に10年間在錫。平田老師から「世間でも修行を」と言われ、32歳で現在の自坊・松雲寺（大阪府池田市）に入寺し、その後も5年間、毎月の大接心に通参した。入寺した頃から東西霊性交流に参加し、国内外のキリスト者とも交流が深い。

洋の東西を問わず、修行者の減少は現代の課題だが「僧堂は禅僧の基本であり、宗教としての禅の本質を忘れてはいけません」。花園大の前期講義を終了後、秋から方広寺に専従し、休単中の方広僧堂を11月から再開単する。室号は薔薇軒。松雲寺の山号から採った。この薔薇はローズではなくイバラを指す。 2018年5月2日付 中外日報「ひと」より

---

花園大学卒。臨済宗天龍寺派天龍寺専門道場に入門し、前管長平田精耕老師の下で15年間参禅修行。天龍寺国際禅堂師家ならびに花園大学文学部仏教学科教授。慶応・立教・同志社各大学へも出講。本年4月より臨済宗方広寺派管長兼僧堂師家に就任。主な著書に『私が生きて・掴んで・実践したもの』（共著・宗教心理出版）、『現代語訳碧巖録』（四季社）、『禅 ぜん ZEN』（禅文化研究所）、『一から始める禅』（監修・ダイヤモンド出版）、『笑う禅僧』（講談社現代新書）ほか多数。